

ニーズレター

発行日 2024年7月19日

特定非営利活動法人 グループホームネット香川



庵治町 篠尾海水浴場

もくじ

- | | |
|---------------|-----|
| ○ 巻頭言 | 2 |
| ○ 総会の報告 | 3 |
| ○ 利用者（親族）からの声 | |
| ・ 大切な自分 | 4 |
| ・ 春のあるの日の思い出 | 5 |
| ○ 「あおぞら」を取材して | 6-7 |
| ○ 事務局だより | 8 |
| ○ 編集後記 | 8 |

巻頭言

障害者間の平等

理事長 細谷 要一

2024年度総会は、昨年に続いて対面での参加ができる本来のかたちでの開催となりました。議事においては建設的で意義のあるご意見をいただき、深謝申し上げます。今後の理事会で検討させていただく所存です。

グループホームにおいては感染予防対策を全面的に外すことはできないとしても、コロナ感染やその他の感染症の状況を見ながら、制限の緩和を進めていくところです。

私が精神保健福祉に関わるようになって半世紀になります。この間に精神医療・福祉関係の法制度はいろいろ変わってきました。我が国の障害者施策の総合的推進を図る法律として1970年に「心身障害者対策基本法」ができ、そこには国・地方公共団体等の責務として医療から雇用、年金等「福祉」の推進が謳われていました。しかし、その題名の中の「心」に知的障害者は入っていても精神障害者は対象外でした。その法律が1993年「障害者基本法」と改名されて、初めて精神障害者が身体・知的障害者と並んで法律の対象者に位置付けられることになりました。その後、障害者の生活を総合的に支援する「障害者自立支援法(2005)」「障害者総合支援法(2013)」ができ、また2018年に精神障害者の雇用も義務化されて、長年の懸案だった障害者間の平等化が進展してきました。

しかし、障害者へのいろいろな福祉支援の具体例を見ると、まだまだ平等でないところが残っています。一例として自治体における入院費助成の問題です。昨年11月の信濃毎日新聞デジタル(長野県)に掲載された記事によると「身体・知的障害者には入院費の助成があるのに精神障害者にはない」「精神障害者も平等に扱ってほしい」との訴えが障害者や家族から出ているとありました。

現在、精神障害者の入院医療費助成があるのは、岐阜県、山梨県、東京都(精神・手帳1級のみ)等で、本年8月から札幌市(同・手帳1級のみ)が助成を始めるようですが、その他の自治体では今も助成から外れています。

当法人のグループホーム利用者は次第に「障害年金と預貯金で、また障害年金と就労(一般、就労継続A・B等)で生活している」生活保護制度非利用者の方が多くなってきています。生活保護法医療扶助が使えない方々にとってはその問題は大きく、改善が求められるところです。

香川県の対応が期待されます。

総会の報告

25年目のグループホームネット香川の総会を終えて

事務局長 鍋谷 健一

2024年度グループホームネット香川の総会が、6月12日（水）19時30分から当法人事務所で開かれました。当法人は、1999年にNPO法人「香川の精神保健福祉を考える会」の設立後、途中2005年に現在の法人名に変更しながら今年で25年目を迎えました。

設立当時は高松市花ノ宮町で建設会社の従業員寮を借りて、入居者4人で出発しましたが、現在は、高松市内で5カ所のアパート・マンションに27人が暮らしています。精神障害者の社会的入院の解消を目的の一つとして、香川県に「ポストの数ほどグループホームを」を合言葉に、山あり谷ありの運営を続けてきましたが、25年の年月の中で利用者本位のグループホームのあり方が新たに問われようとしています。

総会では、2023年度の事業報告と収支決算報告及び2024年度の事業計画案と収支予算案が提案され、若干の補足修正の後、全議案が可決されました。

2023年度事業報告については、グループホーム利用者の対外的な働きかけ（体験発表等）に対する謝金や旅費の在り方や、ハラスメント問題等が話し合われました。

2024年度事業計画については、① グループホームの利用希望者が従来の「退院して地域で生活したい」や「家族から独立して一人暮らしがしたい」等に加えて「発達上の問題」や「依存症の問題」を抱える人にも対応できる体制を作っていくこと。② グループホームへの即入居希望という相談だけでなく、将来に対する不安や設計などの相談も増えていることから、本人のペースに合わせたゆっくりとした相談への対応をしていくことも承認されました。「ニーズレター」の原稿料は必要か否か？や、パソコンなどで「ニーズレター」を見るのが可能な方には郵送は必要か否か？等の議論も出て、今後の課題となりました。

本年は、役員改選の年にあたり、総会では、理事と監事が選出され、総会後の理事会で理事長・副理事長などが選出されました。2024年度から2年間の役員は以下の通りです。

- ・理事長 細谷 要一
- ・副理事長 柁 美幸 河野 幸子
- ・理事 鍋谷 健一 細谷 賢嗣 天満 照美 増田 周作 南 孝則
- ・監事 愛染 美智子 西尾 彰

利用者(親族)からの声

大切な自分

ペンネーム コマドリ

今夏も猛暑を予感するような日々ですが、皆様はいかがお過ごしですか。

ビーズ入居後、無事三度目の夏を迎えた娘と母の二人三脚の道のりと心模様をたどってみたいと思います。

何回目かの退院の後の自宅療養も、なかなか苦戦しながら、ゆっくりと月日は過ぎて、その間、母はいろいろ情報を集めるなか、ショートステイ利用、セカンドオピニオンを受ける等に関心を持ちました。ショートステイは親の健康等で同居が無理になったときのための練習にもなると当時は考え、是非挑戦してほしいと娘に働きかけました。しかし、音に敏感で環境が変わるのが苦手な人にとって、心がついていけないようで、二の足を踏んで進めない状態が続きました。

その間に、セカンドオピニオンを受け、主治医との面談があり、やっと新しい薬に変わり、よい結果が出たのはうれしいことでした。その後、娘もショートステイに挑戦。少しずつ実績を積んで、三泊四日もできるようになりましたが、本人は何日辛抱したら家に帰れるからとっていたようです。慣れてくると、施設で参加したメニューの話をしてくれたり、ピアサポーターと話せる曜日を選んで自分で申し込んだりと、少し元気になってきたようです。

そんな中、グループホームネット香川の活動を知り、見学、体験入居、面談はスムーズにクリアしました。しかし、いざ一人暮らしとなると不安が先に立ち相当混乱しているようでした。親も、先が見通せる訳ではありません。娘の選択を尊重して支援することで精一杯です。その後、やっと本人希望の暦のいい日に入居も決まり、小さい引っ越しを済ませて「じゃあね！」と別れてから、もう二年半近くになります。寂しさや不安等々、乗り越えてきたようです。

娘から「お母さん、これからは自分の好きなように生きて！」と言われたとき、頭の中が真っ白で、答えられませんでした。今まで、家族や誰かのためとだけと思っていましたが、自分のために生きることを忘れていました。

やっと目覚めた今、じっくり思うのは、自分がどうしたいか、どう生きたいのかを忘れてはならないということです。

春のある日の思い出

ペンネーム U,

ゴールデンウィークのある日に、サンポートで音楽のお祭りがあるということで、グループホームの友人と一緒に出かけました。

サンポートのいたる所で、楽器の音がして楽しい感じでした。

まずはじめにお弁当を買ってベンチに座って食べてから、音楽を聴きました。友人が飲み物を買ってきてくれて一緒に聴いていましたが、他の所でやっている音楽も聴きたいということで、しばらく別々のところで音楽を聴いていました。

少ししてから、また友人と一緒にフェリー乗り場の方で聴いていました。そこも景色がキレイで良かったけど、海の風が少し寒くなってきたので、お城の方の音楽を聴きに行きました。

私たちは午前中から行っていましたが、昼からが本番の様な感じでした。お昼を過ぎると人もたくさん集まってきて、最後に聴いた音楽が私のフィーリングにあっていて一番楽しかったです。

バンドのメンバーの人が「ワーオ！高松、海もキレイしやバイ !!」と言っていたのが印象に残りました。

結局、3か所で音楽を楽しみ、5時間半くらいサンポートで過ごしてグループホームに帰りました。少し長い時間外にすぎたのか結構疲れてしまいましたが、楽しかったです。



事業所探訪

就労支援B型事業所「あおぞら」取材して

記：編集委員

令和6年5月24日（金）の14時から私たちは、入居者2人、ニーズレター編集委員3名で就労継続支援B型事業所「あおぞら」を尋ねました。

私たちが訪ねた「あおぞら」は、高松市内にあり、特に興味を持ったのが、水耕栽培で葉物野菜を育てている現場です。ここでどのような方法で栽培されているのか、通所されている皆さんがどのような環境で、どのような作業に関わられているのかをお聞きしてきました。

私たちが感じたことは、通所されている方が作業しやすいように人との間隔に考慮し、少人数での配置になっており、また、作業場もとても明るくて、入室する場合は空気シャワーを浴び、作業用の上着に着替え、雑菌が入らないように工夫されていました。育てられている野菜たちも柔らかくて美味しそうに見えました。

今回一緒に見学された入居者からの感想と「あおぞら」に通所されている方の言葉を聞いてみました。

「あおぞら」を見学して

ペンネーム 豆大福

「あおぞら」を見学するにあたって、私が知りたかったのは、同じ病気の人も働いているのかどうかでした。尋ねてみたところ統合失調症の方も働いているとのことでした。いちばん気になったことは、作業中に体調が悪くなったときの対応でした。スタッフに伝えるとすぐに休憩させてもらえたり、状況によっては送迎してグループホームまで送ってくれることでした。私は女性なのですが、働いている方は男性の方が多いと聞いてきましたが、見学中女性の方もいて少し安心しました。



仕事の内容は、軽作業と水耕栽培をしていました。水耕栽培は野菜を育てていて、種類は20種類ほどあるそうで、レタスだけでも5種類育てていました。野菜が育つ工程を聞きながら、ガラス越しに野菜を見ていたら、野菜がかわいく思えました。種を植え付け野菜になるまで、自分たちの手で育てるから愛情が湧くのだと思いました。野菜を美味しく食べてもらえたらやりがいも出ると思いました。

私はまだ知らない人とかかわるのが不安で引きこもりがちだが、それを乗り越えられるようになったら、就労支援B型も利用してみてもいいのかなという気持ちになりました。

「あおぞら」を利用されている方のインタビューから

「あおぞら」を利用する目的は？

- 自分が購入したいものがある、それを目標に頑張っている
- 収入の目安がはっきりしているため、安心して働ける
- 給料が楽しみ

他の利用者やスタッフの皆さんは？

- スタッフは利用者と一緒に働き、考えてくれるので信頼できる
- 他の利用者との関係がいい

作業については？

- 作物は成長も早く、作業は大変なときもある
- 新しい作物にも挑戦し、私たちの意見も取り入れてくれる

通所や食事は？

- 送迎もあるし、昼食も選ぶこともできて無料

これからは？

- 今までいくつかの作業所を経験したが、自分はここが一番だと感じる
- 自分の目標に向けて、これからも利用したいと思っている



※ 最後に、この度はご多忙の中、こころよく取材を引き受けいただき、ありがとうございました。

事務局だより

事務局 増田 周作

2024年度の総会が無事に終了し、年度の締めくくりがようやくできました。また、念願のホームページのリニューアルもなんとか達成できましたが、内容の精査が十分でないところもあり、少し課題が残っております。新しいパンフレットも完成し、印刷を待つばかりとなりました。

2024年度に入り、利用希望の問い合わせが急増しており、その必要性を改めて感じる次第です。

今後とも、ご支援よろしく申し上げます。



編集後記

最近、好奇心が旺盛になり少しずつ挑戦するものが増えてきました。その中の一つにボウリングがあります。最初は絶対無理だと思いましたが、見学や人から話を聞くなどしている内に、だんだんやってみようという気持ちになりました。

最初はほとんどガーターで、スコアも60ぐらいでした。そのとき「そのうちうまくなるよ、健康のためにやってんだから」と、知らない仲間から声をかけられました。少しずつ要領を覚え、70~90ぐらい出せるようになり、今は100を目標にトライをしています。たまにスペアを取ると、周囲から「いいね」と言われ、笑顔でハイタッチされることもあります。

ほとんど運動らしきものをしたことが無かった私が、臆せず色々な物にトライするようになったことの裏には、仲間の存在があります。引っ込み思案にならず自分から話しかけ、輪の中に私も加わることを皆が受け入れてくれたからです。

今は一歩踏み出す勇気があれば、少しずつ何かが変わるということの楽しさを体験しています (天満)

(発行) 特定非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先: 香川県高松市成合町559番地15

TEL: 087-885-5270 FAX: 087-887-5955